

## 姉妹都市タスカルーサと「俳句」を通して 思いを分かち合いましょう

このたびタスカルーサ国際姉妹都市協会が、習志野、ショーンドルフ(ドイツ)、スニヤニ(ガーナ)の各市に呼びかけている「2020秋俳句プロジェクト」に当協会も賛同して、交流事業のひとつとして、新型コロナウイルスに対する思いをよんだ俳句を募集します。

コロナの状況にあって、思ったこと、感じたことを5・7・5の俳句にしてみませんか。

### 募集要項

テーマ：Coming Together Amid a Pandemic

コロナの世界的大流行の真っ只中で一体になろう

- 留意点：1. 日本語で作成してください。  
2. 順位づけはありません。  
3. 集めた俳句は、両市ホームページなどでの公表を予定しています。  
(応募が多数の場合は一部掲載されない場合があります)  
4. 1人3句まで応募できますが、オリジナルの作品に限ります。  
5. 住所、氏名、年齢、電話番号を書いてください。  
ただし、掲載にはペンネームも使えます。

応募締め切り：10月16日(金)、当日消印・送信有効。

提出方法：応募用紙に記入し事務局に持参、またはメール。

応募用紙は協会ホームページからダウンロードしてください。

詳しい記事が  
NIAホームページから  
ご覧になれます

発行 習志野市国際交流協会  
千葉県習志野市津田沼5-12-12  
サンロード津田沼6F  
〒275-0016

Tel&Fax 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>

[nia@jcom.zaq.ne.jp](mailto:nia@jcom.zaq.ne.jp)



## 桜まつりアートコンテスト1位の鈴木さん、 全米の大会でファイナリストに！

スクウェア第130号で、習志野高校の鈴木涼太さんの作品が2020年桜まつりアートコンテスト高校生の部で1位に入賞したことを紹介しましたが、さらにYAASの国際部門で5人のファイナリストの1人に選出されました、そこで今回、鈴木さんに応募や結果、作品について話をうかがいました。

――タスカルーサの桜まつりアートコンテストで1位になったとき、また全米大会でファイナリストに選ばれたという知らせを聞いたとき、どう思いましたか。  
**鈴木** 率直に言って嬉しかったです。全米大会と聞いたときは自分でも驚きました。1年生で参加したときは結果を残せなかったのが、そのぶん入賞できて本当によかったと思います。

――応募しようと思った理由は何ですか。またテーマを考えて、どのようなコンセプト、デザイン等をイメージしましたか。

**鈴木** 先輩たちが毎年このコンテストで入賞していたので、自分もそれに憧れ、何らかの結果を残したいと思って応募しました。作品は、テーマから「世界を1つにまとめる」ということを考えて、世界でもただ1つしかない「空」の下に、各国の文化のイメージとなる建物、そして世界の

平和を祈る人を描きました。

――作品を仕上げるにあたって、工夫した点、苦労したことはありますか。

**鈴木** 人と建物の間の遠近感を出すため、描くものの大きさには気をつけました。建物は描き込む部分が多く、どうしても時間がかかってしまうので、地道な作業を続けるのに苦労しました。でも作品のメインとなる部分でしたから、最後まで描ききれてよかったです。

――ご自身の将来についてどんなことを考えていますか。

**鈴木** 将来はIT系の職に就いて、世の中の役に立つものを作って貢献したいと考えています。部活動で作品を作るのは今年が最後ですが、絵は今後も描き続けたいです。自分の特技としても、さらに技術が向上できるように頑張ります。

――その他何か言いたいことがあれば何でもお願いします。

**鈴木** 作品の制作について、様々なアドバイスをくださった美術の先生や、締切近くに特別に美術室を開けてくださった国語科の先生、そして保護者に感謝しています。また今回の入賞をとりあげてくださった国際交流協会にも感謝しています。

2020テーマ：“One World : Out of Many, We are One”



▲「同じ空の下で」 ▼鈴木涼太さん



YAAS(YOUNG ARTISTS AND AUTHORS SHOWCASE)とは

全米国際姉妹都市協会のプログラムの一つで、さらなる国際協力や世界平和を実現するために、若者に表現活動の機会を与えるものです。毎年、テーマに沿って多くの美術作品や文学作品等が全米の都市及びその姉妹都市から応募され、優秀作品には賞が与えられます。

全米国際姉妹都市協会(Sister Cities International)とは世界平和や相互理解を目指し、芸術、文化、教育、貿易や地域の発展等に関するプログラムやプロジェクトを通して活動している非営利団体です。現在、約500の会員が140か国以上の国々とパートナーシップを結んでいます。



## 日本語教室でオンライン学習が行われています

コロナで会場が使えず長らく休止中の日本語教室ですが、それでもなんとか学習を続けようと、オンラインでの学習に取り組んでいるボランティアと学習者のペアがいます。その中から今回、お2人に様子を報告していただきました。

### オンライン学習のススメ

飯島 由紀子（日本語教室部会）

日本語教室が休みになり、私と学習者のイズミ・エジソン・ヒデキさんは今までと同じ木曜日の夜にPCでSkypeを利用した学習を始めました。

Skypeは音声通話、ビデオ通話、メッセージのやり取り、画面共有やファイル添付などの機能を持ち、しかもそれら全てが無料のソフトです。LINE等のビデオ通話と違い、通話をしながら画面が共有出来るため、学習用の文章や絵を一緒に見ながら課題を進めることが出来ます。文字だけでわかりにくい点は画像で確認、反対に音声や画像だけではわかりにくい語などは文字にして示すことが出来ます。例えば、日本人が英語のLとRを聞き取りにくいように、濁音などわかりづらい日本語を音と文字の両方で確認出来るため、語学学習にはぴったりのソフトといえるでしょう。通話終了後も専用の画面はそのまま残りますので、ファイルや写真などを送ることが出来ます。私達も学習終了後に、話題に上った事について写真やHPアドレスを送ることがよくあります。写真はエジソンさんが「ブラジルのスイカは日本のスイカの2倍大きい」と授業で話してくれた後に送ってくれた写真です。

週に一度の学習の前に、前回までの課題を見直して臨むのは以前と変わりませんが、今は学習履歴がPCの中に残っているので、見直しもしやすくなりました。教室が遠くても、酷暑でも豪雨でも、授業への参加はPCの前に座るだけなのでいいことづくめのようにみえます。ただ、オンラインでの学習はインターネットの接続状況に大きく左右されます。Skypeやzoomはスマートフォンでも利用出来ますが、Wi-Fiに接続していない場合は携帯電話の回線を使用し、大きな負担になりますので確認や配慮が必要です。またskypeやzoomの学習中に家族がうしろを通ったり、部屋が汚かったり、と見られたくないものを見られてしまうハプニングも付き物ですので要注意です。私も毎回、「膝に乗せてくれ」としつこくせがんで来る愛犬をかわしながらオンライン学習を楽しんでいます。



オンライン学習中のエジソンさん



大きなスイカの収穫。この方はエジソンさんではありません

### やらないよりはOnlineで。メリットもデメリットも

政木 和生（日本語教室部会）

学習者は小学生です。大人と異なり生活に必要な日本語は学校生活の中でかなり学ぶことができます。むしろ学校では、特に国語の授業についていけるかどうかは本人にとっては重要です。コロナウイルスの影響で学校は休校になり、授業の遅れを少しでも取り戻すため宿題は出されていますが、日本語が不十分な児童に十分なフォローがなされているとは言い難いのではないのでしょうか。

このようなことから、本当は教室が休止になった時点からやりたかったのですが、こんなに休止が長く続くとは考えていなかったもので、7月から実施することにしました。

当初はLineの動画通話を使用しました。現在はSkypeを使用

しています。小学校低学年なので自分のスマホやパソコンは持っていないため、母親のスマホを使用しています。

Online教育のメリットは、時間をお互いに相談して自由に決めることができること、教室までの移動時間及び費用が必要でなくなることです。一方デメリットは、日本語教室においては「書きながら教える」や「宿題を出して理解を確認」ということも出来ますが、方法論的、時間的に難しく、学習者への一方通行になりがちなことです。

概要は以上の通りですが、現状では全くできない状態よりは良いだろうということでやっていますが、早くに正常化することを望んでいます。

広報  
から

#### ▶ メールマガジンに読者登録を

スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレスniasquare@jcom.zaq.ne.jpまで。

#### ▶ 原稿をお寄せください

イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局またはniasquare@jcom.zaq.ne.jpへ。

#### ▶ スクウェア編集部員を募集しています

一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。